★向島に生活センターを★

－はんてんまつり、ニツコリバザーで多数の声寄せられる－

向島・愛隣館研修センターニュース

向島の催し、ニュースは愛隣館研修センターへお知らせ下さい。

社会福祉法人 イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL 621-3849 FAX 621-1579
発行　平田　義
編集　馬場園　慎一
　　恵　大一郎

第4回 はんてんまつり終わる！

今回で四回目になる向島はんてんまつりにはバザーや人形劇、子供向けのビデオなどもあり、日曜日ともあって大勢の子供たちが詰め掛けました。同実行委員会が主催しました。

メインプログラムの一つのパネルディスカッションでは向島の歴史、交通、障害者などの福祉問題や教育、在日外国人などに関わる諸問題が話し合われ、向島に児童館を兼ねた生活センターの設置を求める意見が多数寄せられました。

また、向島の交通や教育、福祉問題などに関して、向島・差別と人権を考える会が、先の京都市長選の全立候補者に送った質問状の内容も報告されました。

当日参加した主な団体は以下の通り。

▽日雇い労働者の人権と労働を考える会▽西小倉めぐみ研修センター▽めぐみホーム▽ベテスダの家・店▽日本キリスト教団世光教会青年部▽あそぼう会▽ぱんぷきん▽育の会

楽しいコンサートも（ 9月24日のはんてんまつりで）

市長と全市議に要望書を提出！

「活き活き共生の街を目指して：行政による向島への差別を許さない」と題して、第四回向島はんてんまつりが、九月二十四日愛隣館研修センターであり、「向島に生活センターを兼ねた児童館を設置して欲しい」という意見が多数寄せられました。

このため、はんてんまつりを呼び掛けた向島・差別と人権を考える会は十月十二日、生活センターを兼ねた児童館を作ることを求める要望書を京都市長と市議会議員の全員に手渡しました。

要望書によると、向島には住民が気軽に相談できる公的機関や情報交換できる場がない。しかし、向島が食べて寝るだけの場でなく、人間同士が共に生きられる街であって

（裏面へ　つづく・・・）

連載第3回 ぼくが調べた向島の歴史

柏木正行

前号までのあらすじ

ニュータウン八街区に住む柏木さん、向島の歴史を知ろうと色々調べ始めましたがなかなか資料が見つかりません。それでも何とか頑張って向島の歴史をまとめられました。わたしたちの住む向島の歴史やいかに！

古代、向島の姿は、巨椋池と呼ばれる巨大な遊水池でした。山城地方の開発を手がけた渡来人の優れた土木・建築技術によってこの巨椋池周辺もどんどん開発が進み、人間がそこで営みをはじめるようになりました。

「巨椋」の名前の由来は？

巨椋池の「オホクラ」の名前の由来に関しては、池が馬具の鞍の様にくぼんでいたからとか、この辺りに、巨椋氏と呼ばれる豪族が住んでいたからとか、いくつかの説が入り乱れていますが、どれも決め手は欠いているようです。

水上交通の要所に

古代の巨椋池は、平壌京・平安京、そして、浪速とを結ぶ水上交通の要所でした。桂川を通じて京都へ。宇治川を通じて琵琶湖・近江、そして北陸へ。淀川を下れば、難波から河内、さらに瀬戸内海を経て九州、朝鮮・中国へ。また、木津川をたどり、奈良坂を南へ越えると、そこはもうシルクロードの東端に位置する奈良。私の脳裏には、天平の昔、この木津川を、多くの渡来人が、西域の物産を携え、奈良の都へ向かう姿が、走馬灯の様に浮かんでは消えるのです。

巨椋池やその周辺には、そうした人や物の中継地としての津（港）が幾つか作られていました。例えば、近江の木材が、宇治川・巨椋池・木津川を経由して、奈良に運ばれ東大寺造営に深く関わったという記録も残されています。

中世においても、この巨椋池周辺は、水上交通の要所で、例えば、一一九五年、「新古今和歌集」の編者として知られる藤原定家が、奈良春日大社に詣でた際、京都より大和に向う途中、宇治津から淀付近まで巨椋池を横切ったと記録に残っています。さらに、文永の役の翌年の一二七五年、来日した蒙古の使者四人が、桂川から巨椋池に入って岡屋津に上陸し、醍醐を経て鎌倉に案内されたといわれています。

室町期になるとこの辺りの水上交通の量が一層多くなり、特に木津川を下って巨椋池に入り、宇治・淀・伏見へ出るコースが、盛んに利用されるようになりました。山城国一揆を詳しく記録したことで有名な奈良興福寺大乗院門跡尋尊も、木津より川を下り、巨椋池を縦断して伏見港に上陸したと伝えられています。

つづく

カレンダー

◇教会学校クリスマス◇土曜学校：十二月十日（日）午後、於世光教会。　日曜学校：十二月十七日（日）午後於当センター。　月曜学校：十二月十八日（月）午前、於当センター。　※今年度のテーマは「みんなで生きよう：南部アフリカのお友達と友に：」です。尚、クリスマス献金は全て南部アフリカへ送られます。

◇年末大掃除◇　年中散らかったままの当センター、せめて正月くらいはきれいに、ということで大掃除をしたいと思います。今回は今までに手を付けなかったところにまでメスを入れるつもりです。どうぞお手伝いにきてください日時・十二月三十日（土）十時より。

◇年末・年始休館日◇　十二月三十一日より一月四日まで。一月五日より平常通り開館。

◇開発教育講座◇　一月二十八日（日）午後二時半～四時半。当研修センターにて。

第二回「開発教育ってなんだろう会」という題で、特に第三世界における開発がどの様にあるべきなのかを、スライドによる発題・討論を交えて考えます。是非ご参加を

お知らせ

ご好評をいただいております「のぶお先生の健康教室」は今号は休載させて頂きます。

釣りとバイクのすきな　おとうちゃん
＋
絵本のすきな　おかあさん
八百屋をやってます
無農薬野菜の
ぱんぷきんです。
Pumpkin
旬の野菜・有機農法米・天然の調味料・パン
たまご・牛乳・乳製品・豆腐・ハム・ベーコン
＋ 旬のくだもの・クッキーなどなど
こんなものを売っています
無農薬八百屋
ぱんぷきん
京都市伏見区向島二ノ丸町151-58
1-6-805
TEL 075-611-7547
とうぐら 東城 でき。
ぱんぷきん

ほしい。そのためには住民の出会いの場としての生活センターを備えた児童館を作ってもらいたい。とのことです。

向島ニュータウンには現在児童館は二館あるが、約六千世帯、人口二万人強で二館では十分とはいえず、しかも、小さな子供が多いのにもかかわらず、遊び場は少なく、現在ある児童館もニュータウンの両端近くということで、ニュータウンの真ん中にもう一つ児童館をという声が以前から強かった。

向島地区にはまた、心身に障害を持った人や在日外国人など、いわゆる社会的に弱い立場にある人が多く住み、住民が互いに情報を交換したりあるいは気軽に困りごとを相談できる公的な生活センターのような施設の設置を求める声も少なくありません。

要望書を受け取った市議は、「ご要望は良くわかりました。」と答えていました。

熱い討論がくりひろげられる（第4回はんてんまつりにて）

第3回 ニッコリミニフェスティバル開かれる！

…やはり生活センターを求める声が：

「色々な人々が気軽に集える生活センターを創ろう！」をテーマに第三回向島ニッコリミニフェスティバルが十一月十九日、愛隣館にて行なわれ、約五百人の人が訪れました。

バザー、子供むけ映画、ペープサート、仮装大会など、少し肌寒い日でしたが、みんなで楽しい一時を過ごしました。

当実行委員会では、今後、月に一度、生活センターの設置に向けて準備会を開く予定にしております。当面は、他地域の生活センターの調査、学習、また、向島地域での生活センターに対するニーズの確認をする予定です。詳しくは当センターまでお問い合わせください。

…要望書…

京都市長　田辺朋之殿

私たち向島・差別と人権を考える会は、今年の八月に実施された京都市市長選挙に立候補された貴殿をはじめ、候補者各位に公開質問状を提出いたしました。わたしたちの公開質問状と、貴殿を含む候補者各位からの回答文は、過日、わたしたちが行なった「活き活き共生の街をめざして：行政の向島への差別を許さない！」というテーマの集会で公開しました。

それに基づいて住民の間で活発な意見がかわされ、行政の立ち後れが各方面から指摘されました。様々な討論の結果、特に多くだされていたのは、「この向島地域に生活センターを兼ねた児童館を設置して欲しい」との意見でした。この向島地域には、障害者をはじめ、在日韓国・朝鮮人、老人、母子家庭など、いわゆる社会的に虐げられている人々が多く居住しています。しかし、この向島には、そうした生活に困窮している住民が気軽に相談できる公的機関も、また住民が、相互に情報を交換できる場所もないのです。

新しく京都市長に選ばれた貴殿は「市民の福祉の充実」を公約されました。そうした貴殿に対し、私たち向島・差別と人権を考える会は、市民としての向島地域の住民の福祉の充実をはかる見地からもこの向島地域に生活センターを兼ねた児童館を設置されるよう要望する次第です。

今年の春、向島ニュータウンの五街区に設置されている車椅子住宅が何者かに襲われ窓ガラスなどが割られました幸い、そこに住んでいる障害を持った方は留守だったので難を逃れましたが、他にもこの向島地域では、子供のシンナー遊びなど暗い事件が後を立ちません。こうした事件の背景には、教育や福祉の分野で、行政諸策の立ちおくれがあるのではないかと考えます

私たちはこの向島が食べて寝るだけの場所ではなく、人間が人間に出会える街、共に生きられる街であってほしいと心から願っています。そして、そうした出会いの場としての生活センターを兼ねた児童館の設置を重ねて要望する次第です。

一九八九年十月十二日

向島・差別と人権を考える会

インドネシアでの研修に参加して

－アジアで聞いた日本の存在－

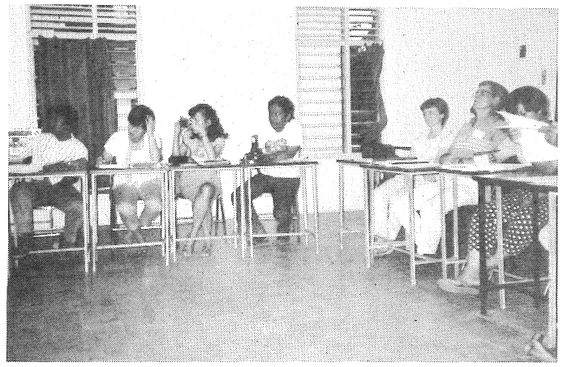
愛隣館研修センター

恵　大一郎

研修センターに本格的にお世話になるようになって早六か月、いきなり国際的な場に出ていくことになりました。

語学力に不安を感じつつも何とか研修を終えてきました。

この研修の主催は、ＡＣＩＳＣＡという組織です。



各国からの参加者

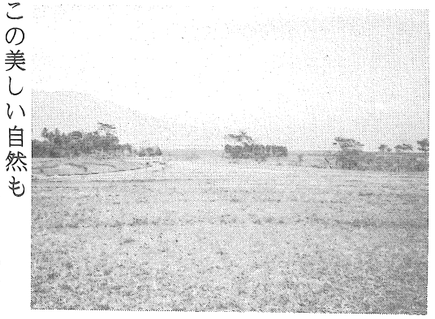
アジアの八ケ国から

九月二十三日から十月十日までの約三週間、インドネシア・中部ジャワのサラティガという街で開かれた、アジア地域にあるキリスト教系の様々な施設で働く職員対象の研修会に参加させてもらいました。アジアの八ヶ国（インド・スリランカ・タイ・フィリピン・台湾・韓国・日本）から、男女約三十名ほどが集いアジア地域の抱えている様々な問題について、熱のこもった討論が行なわれました。

アジアの中の日本の存在

その討論のなかで、しばしば、アジア（特に東南アジア）において：日本：がアジアの草の根の人々にとって望まれないかたちで存在し、目立ちすぎているのではないかという声を聞きました。

例えば、わたしたちが日頃好んで口にするエビですが、日本の大型トロール船が東南アジア近海へやってきて、エビを根こそぎ捕って持って帰るために、今まで豊富にとることの出来たエビが、今ではほとんどとれなくなってしまったそうです。そのうえ、今では、エビを日本に大量に輸出するために、現地住民を、暴風雨の被害などから守ってくれていたマングローブの林を切り開き、たくさんのエビ養殖池がつくられているということです。そこでは、現地の人が、その日食べていくのがやっとというくらいの低賃金で働かされているということです。東南アジアに進出している日本の様々な工場などでも、状況はエビ養殖労働者と似たようなものだということです。



この美しい自然も乱開発によって：

何気ない身の回りから：

こういった話を聞かされ、私たち日本人がおくっている生活が、実はアジアなど第三世界の人々の犠牲のうえに成り立っているのだなあと改めて思い知らされました。真に対等にアジアの人々と付き合っていくためには、先ず私たち一人一人が、自分の生活・身のまわりをみつめ直し、自分たちの何気ない行動が第三世界の人々を苦しめているのだということに意識を持ち、生活を変えていこうと努力することが大切なのではないでしょうか。例えば、材木の非常なムダ使いである割り箸を便利だからといって使い続けているのをやめてみるとか、小さな事からはじめていくことが大切なような気がします

クリスマス　献金のお願い！

今年度で十年目を迎えることになりました愛隣館研修センターでは、今後の活動をより一層充実させ、地域のニーズに応えていくために、クリスマス特別献金をお願いいたします。

研修センターでは、一面にもありますように、今後、生活センターの設置・運営を目指して運動を展開したいと考えております。「障害」児・者、お年寄りなどが気軽に集えるために、まず、「エレベーターの設置」を目標にしています。

クリスマス特別献金は、このための基金の一部にしたいと考えております。目標額は百万円です。どうぞよろしくお願いいたします。